

2 右室心尖部壁在血栓を認めた Churg-Strauss 症候群の一例

○井上 侑佳, 中倉 真之, 辰巳 智香, 小菌 治久
大西 重樹, 浦田 洋二
京都第一赤十字病院 検査部

【はじめに】

Churg-Strauss 症候群は, 気管支喘息が先行し, 末梢血好酸球増多と共に種々の血管炎症候をきたす疾患である。好酸球増多は, 全身の臓器に様々な障害を引き起こし, 重篤な後遺症や死亡に至る症例もみられる。今回, 右室心尖部に壁在血栓を認めた Churg-Strauss 症候群の一例を経験したので報告する。

【症例】

67歳男性。2012年初冬から倦怠感と咳, 痰, 鼻汁, 喘鳴が持続し, かかりつけ医で抗菌薬内服とステロイド吸入を受けたが改善せず。2013年初めから発熱と血痰, 好酸球増多を認め, 好酸球性肺炎が疑われたが胸部 CT で異常なし。両側上肢末梢のしびれも出現したため, 1週間後に当院総合内科を紹介受診。

【所見】

血液検査: 好酸球の著名な増加を認めた。また, MPO-ANCA 陽性, 血清 IgE 増加を認めた。

経胸壁心臓超音波検査: 右室心尖部に血栓を認めた。また, 左室心尖部は過収縮で, 内腔が消失していた。

下肢血管超音波検査: 左後脛骨静脈と左ヒラメ静脈内に器質化した血栓を認めた。

肺血流シンチ: 両側下葉を中心に上葉背側などの血流低下を認め, 肺塞栓症が疑われた。

【経過】

ヘパリン持続点滴とワーファリン内服による抗凝固療法が開始され, 約1か月後の経胸壁心臓超音波検査では, 血栓の消失と右室自由壁運動の改善が確認された。

【まとめ】

右室心尖部に壁在血栓を認めた Churg-Strauss 症候群の一例を経験した。

超音波検査により血栓が発見されたことから, 治療方針決定に貢献することが出来た。さらに, 経過観察により治療効果の判定にも有用であった。

京都第一赤十字病院 検査部
075-561-1121 (内線 2882)
kensa-bu@kyoto1-jrc.org